

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (35)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

今回は Basic の言葉・ことば・コトバ(words, words and words)を意識した本連載 No.35 である。英語の母語話者の言語習得は幼少の 2～3 年間で身につけてしまう能力であり、この 2～3 年間にその最大の秘密があるのは確かであろう。したがって言語習得(language acquisition)の問題研究はそこに焦点をあてればよい。しかしながら、外国語としての英語修得(English study as a foreign language)は話はまったく別となる。

本会の Year Book (2021), No.73 での拙稿(pp.22-32)で、次のような左から右方向(水平方向)に文が input されるとともに、縦方向(垂直方向)にぐるぐる回り、パターンの繰り返しで文が output される横長円筒型(シリンダー型)の動的な回転英文母型としてのマトリックススクリーン(Matrix Screen of Output English : MSOE [émsou])／別名 Automatic Parsing Apparatus (自動構文解析装置 : APA [ápə])／Basic での別名 Automatic Sorting Machine for Output English (表層英文自動仕分け装置 : ASMOE [ázmou])〔3 者とも仮称〕を提示した。書かれた英文は静止しているが、読み取りとなるとそれは動きだし回転すると考えたい。いわゆる電光掲示板(electric sign board)風のをイメージ化すればよい。文字送り速度もあの程度のものと考えればよかろう。

ここでまずは上記拙稿から文例を 1 つ抜粋し転載するとともに、新たな 2 例を付け加えて提示することとする。いずれも Basic 文である。

- It is necessary for you to make certain that all the windows are shut before you go out of the room. / • Make America great again. / • Keep America great.

STATEMENT					
		THEME: NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	It	is	necessary	φ
2	for	you	φ	φ	φ
3	to	φ	make	certain	φ
4	that	all the windows	are	shut /	φ
5	before	you	go	φ	out of the room. //
1	φ	φ (= I)	φ (= request, order) /	φ	φ
2	φ (= that)	φ <you>	(should) make	America great	again. //
			(should) keep	America great. //	φ
1	φ	φ (=I)	φ (= request, order)	φ <you> /	φ
2	φ (= to)	φ	make	America great	again. //
"	φ	φ	keep	America great. //	φ

<備考>THEME：主題、RHEME：題述、NP：noun phrase、VP：verb phrase、N：noun、V：

verb、 A: adjective、ADV: adverb、STR: stratum (文層)、C/C: connective, complementizer, etc. (接続語、補文標識語など)、COP: copula、 ϕ は空(くう)記号、またここでの単一斜線(/)は各文での**意味的2分割線**を示す[本連載(24)の末尾で扱った「試問」の例とも関わる]。

上の2つ目の例での文 Make America great again. では、いわゆる**命令文(imperative sentence)**での主語(subject)はいわゆる伝統文法での‘you’ではなく、‘I’ (私)であることが見えてくる。これは N. Chomsky 風の分析で performative sentence (遂行文・執行文)として知られるものである。すなわち、pragmatics (語用論)的な speech act (発話行為: SA)で、発話(speech)が動詞 V で示される行為(act)を遂行するという考え方となる。注目に値する重要な見方である。

ORDER, REQUEST, NAME は performative verb (遂行・執行動詞)の代表的なもので Basic 語でもあるが、他に promise, inform, call, sentence (宣告する・判決を下す)なども執行・遂行動詞である。なお、sentence は[sent (= sense) + ence (= act)]で、「感じること(sense)を表現・発散する行為(act)」という意味である。Basic 語の **sense**, **send**、また un-Basic 語の scent (匂い)、consent (承諾)、consensus (コンセンサス)などと同系である[拙著、松柏社(2016)、第二部、例(61)参照]。いずれにせよ、この2例はそれぞれ文層[深み(depth)]が5層と2層であることが解かる。

これにならって下の tweet をこのマトリックスに入れ読み聞きでの解かり方(理解法)を見てみる。すなわち、発信する言語資料の encode 化[コード化(符号化)]に対し、ここでは発信された言語資料の decode 化[ディコード化(復号化)]を見ることになる[同上 Year Book No.73 (2021) 拙稿参照]。

書かれたり話されたりする英文が分かるということはそもそもどういうことか?であるが、structural linguistics (構造主義言語学)風のこの英語文の回転母型としての鋳型モデルが脳裏に深く根を下ろせば、すべての英文が意味的区切れ目(分割線)とともに透けて見えてもこよう。コンピュータスクリーン上に素早く語句を入力していく感覚で、次々と固定されたグリッド(grid)に語句を当てはめていくのである。このあたりは、語の他の語との共起性(co-occurrence)の問題とも関わっている。今回はこの parsing (構文解析)に基づく **Matrix Screen (MSOE)上のみで提示し見ていくこととする。**

Matrix Screen of Output English (MSOE [émsou])

STATEMENT					
		THEME: NP	RHEME: VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	So,	it	has now been determined,	ϕ	by 18 people
2	that	ϕ [= they]	truly hate	President Trump, /	ϕ
3	that	ϕ	ϕ	ϕ	there
4	ϕ	ϕ	was	ϕ	ϕ
5	ϕ	No Collusion with Russia. //	ϕ	ϕ	ϕ
1	ϕ	ϕ	ϕ	ϕ	In fact,

2	φ	it	was	an illegal investigation /	φ
3	that	φ [= it]	should never have been <u>allowed</u>	φ	φ
4	to	φ	start. //	φ	φ
1	φ	I /	fought back hard against	this <u>Phony</u> & Treasonous <u>Hoax</u> ! //	φ

<備考> 単一斜線（／）は各文での意味的 2 分割線。

(April 10, 2019)

▲一般に文層は同じでも、グリッド（柵目）の中の要素が多く組み込まれている文のほうが理解法上の負担は重くフォロー(follow)しにくい。もちろんこういう負担の軽重には、文構造上での単文・重文・複文・混文の違いなども関わってくる。各グリッド・スロットには $3 \pm \alpha$ 語が入るとともに、各文層(STR)は情報の memory span（記憶範囲）との関わりから **7±2 語(5～9 語)**程度のもものとなる。

5の倍数の $5 \times N$ (個) の柵目をもつこの MSOE スクリーン上に映し出せば、表層英語文の意味的区切れ目が慣れで視覚的にも解かりやすく見えてこよう。慣れる必要がある。聴覚的には聴いた文を書き起こしていく transcription がやはり効果的となる。筆者は一時、英文速記を習っていたことがあるが、これは transcription そのものとなる。

いずれにせよ、表層英語文の decoding（復号化）となる受動的な読み聞きによる理解法に関してはこの種の MSOE スクリーンモデルで説明できると思える。文の readability（可読性）と audibility（可聴性）の問題であるが、「分かること」は「分けること」である。われわれが英語文を読んだり聞いたりしてそれが分かるということは、こういう structural linguistics 風の MSOE スクリーン上での「分け方が分かること」のはずだろう。文の意味的区切れ目(chunk)を見抜くことで、parsing とはそういうことを背景とする。この種の母型は無限の英文を有限個にパターン化する。

しかしながら、能動的言語活動として encoding（記号化）となる書き話す深層レベルとなると、なおブラックボックスの解明が必要となる。実践面からすれば英語の reading / listening とは違い、writing / speaking を日本生まれの日本育ちの日本人が他人に真に正しく教授することは事実上はほとんど無理なことで、writing は原文の transcription（書写）はもちろん確かなものであるが、speaking には原音の shadowing（シャドーイング）による復唱が効果的となる。英語音声は静かな録音室の中で録音された朗読調の発話スタイルのもので日本人の民族聴覚でも問題なくよく聞こえる、いわゆる声の抑揚としての英語の intonation などに注目していても特に得られるものはない。スポーツ実況放送、喧嘩、緊急・非常事態での叫び等々の本物で生の呼吸法による英語の sound / rhythm に特別に筆者は注目しているが、日本人の聴覚脳に馴染まない英音の高周波(HF: High Frequency)の聴取(hearing)が英語修得を最も難しくしている。

理論面からは本連載(13)、(14)で **generative semantics(生成意味論)風の Lexical Conceptual Structure(語彙概念構造:LCS)**として []x ACT-ON []y CAUSE [BECOME [[]y BE-AT-[ON/IN/WITH] []z]] を提示した。これは能動的に文を

大量生産する確かなモデル構造の1つだと考えている。

上文の内容を本連載(22)～(28)で扱った3つの深層意味素(deep sememes)に分けて示せば、i) <ABOUT> : ロシア疑惑、ii) <BECAUSE> : 大統領の私を憎悪する民主党の18人の連中はロシアとの共謀はなかったと断定はしたが当初から違法の調査であり、私はき然たる態度で臨んだのであり、iii) <PLEASE> : 調査などして欲しくなかった、のようになる。2019年3月に Mueller 特別検察官の捜査報告書の概要が出されたあとも、18人は疑惑を執拗に追究していた。このあと4月に詳細な報告書が改めて公にされた〔ネット上にも掲載された(4月18日)〕が、当時の Barr 司法長官はやはり共謀と司法妨害の明確な証拠はないとした。そして本件はゲームオーバーとなった。

なお、この tweet の最初の文で STR 1・N₁ での it は STR 3・CC の that であり、STR 2 は挿入節である。Matrix Screen 上で5層の文であり意味理解が難しくもなる。太線で示した allow, phony, hoax はともに「音」に関する語である。allow という語の由来は「賞賛すること」を意味する叫びのような擬音語とする説がある。[aláu] という音にそれが感じられるが {al (= to) + (l)low (= to put)} ともされる。無言電話のことを phony (偽物・ごまかし) とも言うが、音のイメージである。hoax (偽・でっち上げ) という語にも「音」の響きを感じ取るとよい。やはり音感と語感である。

phony, hoax など音声的にこういう響きの1音節語はしばしば英語では俗語(slang word)である。hoax は特に意味のない呪文・まじない言葉 hocus-pocus とも関係があるとされている。illegal investigation ; should never have been allowed ; fought back hard against という文脈上からも、ここでの this Phony & Treasonous Hoax はセットで負(マイナス)のイメージ語句の羅列と直感できればよい。英語力を推し量る1つの指標が実は俗語表現の知識であり、略式語の俗語・卑語に強い人は必ず英語に強い。

(演習) 本連載(31)～(35)より

1) 次の a)～g) の Basic 語と同系の他の Basic 語は、下の①～⑦のうちどれか。

a) **bite** b) **right** c) **straight** d) **station** e) **true**
f) **simple** g) **seat**

* * *

① **boat** ② **complex** ③ **regular** ④ **side** ⑤ **store**
⑥ **street** ⑦ **tree**

2) 次の①～⑩の語と同系の Basic 語は下の(a)～(j)のうちどれか(太字体は本来の Basic 語、イタリック体はプラスα Basic 語)。

① beetle ② foreign ③ prostitute ④ scandal ⑤ whole
⑥ charity ⑦ trust ⑧ display ⑨ each ⑩ sentence

* * *

(a) **bite** (b) **care** (c) **every** (d) **healthy** (e) **rule**
(f) **scale** (g) **sense** (h) **simple** (i) *stable* (j) **tray**

.....

[正解]

1)	a) ①	b) ③	c) ⑥	d) ⑤	e) ⑦	f) ②	g) ④			
2)	① (a)	② (e)	③ (i)	④ (f)	⑤ (d)	⑥ (b)	⑦ (j)	⑧ (h)	⑨ (c)	⑩ (g)

